

医学・薬学予稿集全文データベースの 利用動向とニーズ解析（２）

黒田明子

科学技術振興機構 情報提供部

昨年、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の提供する医学・薬学予稿集全文データベースについて、2004年度の利用量を分析した。今回は、2005年度における利用量についてその変化を追った。また、2004年度・2005年度の日本看護協会の利用についても分析し、看護分野において利用の多い予稿集を整理した。

分析内容

学会名別、資料名別に、JMEDPlusからのリンクによる閲覧回数、JDreamでの医学・薬学予稿集全文データベース指定利用による閲覧回数、JDreamを介さない単体での利用による閲覧回数、および総合の閲覧回数をそれぞれ分析した。

分析結果

アクセス形式を問わず、総合的に閲覧回数の多かった学会

学会別の総合利用量データでは、2004年度、2005年度共に、日本看護学会および日本看護協会が発行する予稿集の閲覧回数が1、2位となっており、トップ10までは若干の入れ替わりがあるものの、よく閲覧される予稿集を発行する学会は固定されていると見てよい。これらのアクセス数は日本看護協会の会員ダイレクトからによるものが多い。

2004年度、2005年度の会員ダイレクトの利用から、以下が明らかとなった。会員ダイレクトから各文献へのアクセス状況を見ると、医学・薬学予稿集全文データベースを経由しての利用のほうが多く、学会名を指定しての検索が好まれていると言える。

「日本看護学会」が発行する予稿集は、医学・薬学予稿集全文データベース経由での利用が突出しており（ほぼ100%）、学会指定での検索が多いと思われる。

一方、「日本看護協会」が発行する予稿集は、JMEDPlusからのアクセスが突出しており（ほぼ100%）、両組織が発行する予稿集へのアプローチの違いが明らかである。

順位	2004年度に予稿集利用の多かった学会	順位	2005年度に予稿集利用の多かった学会
1	日本看護学会	1	日本看護学会
2	日本看護協会	2	日本看護協会
3	日本透析医学会	3	日本透析医学会
4	日本臨床外科学会	4	日本臨床外科学会
5	日本看護研究学会	5	日本薬学会
6	日本消化器外科学会	6	日本看護研究学会
7	日本薬学会	7	日本化学会
8	日本化学会	8	日本社会保険医学会
9	日本消化器病学会	9	日本消化器外科学会
10	日本社会保険医学会	10	日本消化器病学会